

株式会社五十嵐商会

事業内容：包装資材や梱包資材の卸売業が主な事業内容。店舗の販売や近くの飲食店等への販売も行っている。

創業：52年



代表取締役 ^{せいた} 脊板 幸子さん

■長寿の秘訣や大切にされている考えなどをお聞かせください。

創業当初から「支払日人生で一番楽しい日」という言葉を大切にしており、私たちの商売の原点です。

当時は“信用”が十分でなく、仕入をすることも困難でした。そこで創業者である父が掲げたのが「相手に信用される人になる」という信念でした。

私たちの商売は基本的に仕入先様がいらっしゃって、そこで買わせてもらうことで成り立つため、まずは仕入れ先様に信頼・信用されなければいけません。そのため、誰よりも素早く支払いを実践することで信用を高めてきました。

この思いを受け継ぎ、私たちはお取引先や地域の方々との“信用”を第一に、要望や課題に対して真摯に向き合い、着実に実現しています。

■会社を引き継ごうと思ったきっかけは何でしたか。

元々は他の企業で働いていましたが、父がずっと後継者不足で悩んでいた姿を見て、「一生に一回でも親の仕事を知らないといけないんじゃないか」という使命感に駆られて、承継の可能性も視野に入れ、自分から進んで入社しました。

そこから3年間は総務であったり、経理であったり、営業であったりと一通りの業務をやらせてもらいました。

大学生の頃は何も思わなかったのですが、社会に出てみて父の会社は大きくなくても頑張っていると気づき、何とか力になりたいという思いがありました。

■いざ会社を継いでみていかがでしたでしょうか。

北区で生まれ育ってきてきましたので、この地で事業をできることに嬉しさを感じます。

会社を継いで良かったと思っていますし、これからも事業を発展させたいという気持ちでいっぱいです。

先代の社長である父は、カリスマ性があり、時代の変化に応じて自ら事業を切り開いていく、トップダウンでの経営を進めていました。

私が引き継いでからは、2人の息子もまだ幼いので、経営と育児の二足の草鞋で、時代の流れを味方にしながら、自分なりのやり方を模索しつつやってきました。

経営者として、組織力を強化し、会社の方向性を定めることに注力し、具体的な実現方法は、社員と力を合わせ、今みんなで会社を良くしようとしています。

■従業員の方との接し方やマネジメント面でどのような点を大切にされていますか。

社員それぞれがプロフェッショナルとして仕事に取り組んでくれていますが、年齢層の高さに応じた熟練度に支えられているとも言え、5年10年先を考えた時に、社員の力に頼るだけではなく、組織として力を引き出すやり方が必要だと感じました。

組織変革の第一歩として取り組んだのが、社員と会社の方向性を共有するためのビジョン・ミッションの明文化です。そしてその実践のために、社員との定期的な面談も強化しているところです。

お客様に喜んでいただくために何をすべきか、仕事をどう改善していくか、私たちのあるべき姿について、社員と一つ一つ話し合い、実践しています。



当社の物流センター